

第5学年 道徳科学習指導案

1 主題名 異性への理解の深まり B(10) 友情, 信頼

2 資料名 「言葉のおくりもの」

3 授業構成の意図

本指導の内容は、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関するものである。友達は、家族以外で深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によっては学校生活に大きく影響してくる。高学年になると、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとする一方で、興味や関心が一致する閉鎖的な仲間集団をつくる傾向にある。特に、男女の関係を意識するようにもなり、対立が生じたり、悩んだりすることも少なくない。そこで、信頼関係に男女の区別は関係ないことに気付かせ、互いのよさを認め、誰とでも信頼関係は成り立つという考えをもたせるようにすることが大切である。

本学級の児童は、4年生まで1クラスで過ごしてきたが、5年生になって初めて2クラスに分かれ、環境が変わっている。友達アンケートの結果では、異性と仲よく遊ぶことができると回答している児童が94%で、自然とみんなの外で遊ぶ姿が多く見られる。しかし、固定化された友達関係での安心感で生活している児童も少なくない。また、学習においては、与えられた課題を最後までやり抜こうとする態度が見られるが、自分の意見を伝えることに恥ずかしさから消極的な児童の姿も見られる。そこで、男女が仲よく助け合うために大切なことは何かを考えることを通して、これまでの自分を振り返り、男女関係なくよさを認め合い、自分の意見を伝え合い信頼し合いながらよい人間関係を築いていくことの大切さに気付かせたい。

本単元は、学級活動や日常生活の中で見られる友達との関わり方について、自己を見つめ考える活動になっている。異性を気にせず誰にでも優しく接するすみ子の姿を見て変化していく一郎やかしの心情に迫ることで、男女仲よく協力することのよさを感じ、考えさせることができる。学んだことを生かす場として宿泊学習の活動を位置付けることができる。さらに、宿泊学習の事前の計画や話し合い活動、実際の活動を通して見られた姿をもとに、再度遠く離れていても信頼し合う登場人物の姿を通して、「信頼関係とは何か」についてもう一度自己の考えを見つめ直し、自分と友達の意見をつながげながら話し合うことで、いろいろな考えに気付くことができる。また、再度学んだことを生かす場として集会活動を位置付けることで、自己を見つめ、高める力を育てることができる単元である。

指導に当たっては、「信頼関係とは何か」についてもう一度自己の考えを見つめ直し、異性と助け合ったり、学びを通して信頼関係づくりについて考えを深め合ったりすることの大切さについて考えさせる。そのためには、児童の実態を踏まえ、ワークシートを活用した話し合い活動を取り入れた指導を展開することで、お互いの意見を交流させていく。その際、安心して自分を表現できるように、ワークシートに書いて自分の考えをもたせ、自分と友達の意見をつながげながら話し合うことで、いろいろな考えに気付くことができるようにしたい。

4 授業の計画 (総時数 8時間)

時	場面	「資料名」: 学習活動 (夢中に学んでいる姿)	資質・能力
1	考える 対話する	学級活動「係を決めよう」 学級がよりよくなるための活動内容について考えている。	自主的に工夫して活動できる内容を考えることができる。
2 時	考える 対話する	「言葉のおくりもの」 登場人物の心情の変化に着目して話し合い、異性とのよい関わり方を考えている。	相手のよさを理解し、男女関係なく友情を深める大切さに気付くことができる。
3 ~ 5	対話する 習得する	総合的な学習の時間「宿泊学習」 班ごとに役割を決めたり、めあてや約束を話し合ったりする。また、班のマークを考えたり、班旗を作成したりする。	互いを思いやり、ともに協力し合い、支え合うことができる。
6	考える 対話する	「友のしょう像画」 相手を思う行動について話し合い、友情を深めていくために大切なことを考えている。	友情について自己を見つめて考え、互いに信頼し合うことの大切さに気付くことができる。
7 ・ 8	考える 習得する	学級活動「集会を開こう」 友情を深めるために、みんなで楽しめる集会を計画し、活動している。	全員が楽しめるルールや内容を考え、実行することができる。



授業を通して育成したい子どもの姿

ワークシートの活用や形態を工夫した話し合い活動を通して、自分を見つめ振り返ることで、異性のよさを理解し、関わっていこうとする姿

5 本時のねらい

異性との関わり方について考えることを通して、児童一人一人が男女関係なく異性のよさを理解し、互いに信頼し合いながらよい人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

6 学習過程

	学習活動・内容 (C 児童の反応) ◎中心発問 ○主な発問	時間	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
課題設定	1 アンケートの結果や教材の挿絵を基に、学習課題を設定する ○ 冷やかされるとどんな気持ちになりますか。 C：恥ずかしい。嫌になる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">男女が仲よくするために大切なことは何だろう。</div>	7	○ アンケートの結果から、異性の友達と仲よく遊べる一方で、冷やかされることもあることを伝える。 ○ 教材の挿絵や表情から場面や気持ちを考えさせることで、異性との関わり方について、問題意識を高めるようにする。
課題解決	2 「言葉のおくりもの」を読んで考え、話し合う。 ◎ すみ子の「言葉のおくりもの」を聞いて、一斉に拍手をしたみんなや、一郎に握手を求めに行きたかきは、どんなことを思ったでしょう。 T：自分の考えをワークシートに書きましよう。 C：すみ子の言うとおりに、楽しいクラスにしたい。 C：男女で力を合わせていくことに賛成。 C：からかって悪かったな。ごめん。 C：一緒に協力しよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○ 男女が仲良く、力を合わせるって具体的にはどういうことかな。 T：自分の考えをワークシートに書いてから、グループで話し合ひましよう。 C：相手のいいところを見つけて、助け合う。 C：当番の時、声をかけて一緒に活動する。 T：グループでどんな話し合ひがされたのか、みんなに伝えましよう。</div>	30	○ 登場人物の顔や挿絵を提示し、場面毎に3人の関係性をとらえながら範読する。 ○ すみ子の表情や発言に着目させ、すみ子がどんな時でも異性を気にせず、誰にでも優しく接していることに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○ 「言葉のおくりもの」を聞いたみんなや登場人物の心情について考えさせ、ワークシートに書いてから話し合わせることで、それぞれの心情の変化をとらえさせる。</div> ○ すみ子が一郎に贈った「言葉のおくりもの」を提示し、すみ子の思いを感じる文章に着目させる。 ◎ 友達と考え合うために、自分の考えを明確にする時間を確保する。 ◎ すぐに始められそうな具体的な方法について、グループで話し合わせる。その際、発表ボードに記入させることで、主体的な話し合いになるようにする。
振り返り	3 自他の学びを共有し、見つめ直す。 ○ 今日の学習で考えたこと、今後に生かしたいことを書きましよう。 C：男女関係なく、恥ずかしがらないで、相手のことを考えて声をかけたり、協力したりしていきたい。	8	○ 学習を通して、考えたことや今後生かしたいことを振り返り、学びを実感できるようにする。 ◇ 異性との関わり方について自分事として考え、よりよい人間関係を築こうとする心情をもっているか。(発言・記述)

7 板書計画

男女が仲よく力を合わせるとは、
・相手のいいところを見つけて、助け合おう。
・当番の時声をかけて一緒に活動する。

いっせいはく手が起こった
・すみ子の言うとおりに。
・男女で力を合わせていきたい。
・楽しいクラスにしたい。
・からかって悪かったな。

「言葉のおくりもの」の文

言葉のおくりもの
男女の友情を深めるために大切なことは何だろう。

アンケートの結果
①異性の友達と仲よく遊べるか。
②異性の友達と遊んでいて、冷やかされたことがあるか。

思う	94%	ない	72%
思わない	6%	ある	19%